

2018年度 活動報告書

福知山公立大学
まちかどキャンパス

吹風舎
ふくちしゃ

FUKUCHISHA
The University of Fukuchiyama



福知山公立大学 まちかどキャンパス「吹風舎」
〒620-0028 福知山市字上新7番
TEL : 0773-45-3087
Email : machikado@fukuchiyama.ac.jp

福知山公立大学市民学習・キャリア支援センター
〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
福知山公立大学 2号館 1階
TEL : 0773-24-7151 FAX : 0773-24-7152
Email : kita-re@fukuchiyama.ac.jp

 福知山公立大学

大学の教職員・学生と地域の人々が集い

ひとを育てる。まちを育てる。

FUKUCHISHA

吹風舎(ふくちしゃ) 名称由来

「吹風舎(ふくちしゃ)」の名は、和泉式部の歌と言われる「丹波なる吹風(ふくち)の山のもみじ葉は散らぬ先より散るかぞおもう」の「吹風(ふくち)」の文字にヒントを得て名付けました。大学が福知山に新たな風を吹かせたいとの思いを込めたものです。



福知山公立大学

まちかどキャンパス吹風舎(ふくちしゃ)の概要

コンセプト

大学からまちに出て、「まちかど」=地域社会の只中に設けた「まちかどキャンパス吹風舎(ふくちしゃ)」は、大学の教職員・学生と地域の人々が集い、交流する機会と場をつくる「いえ(舎)」です。多様な人々が集い、話し合いや共同作業を通して学び合い、持続可能な地域社会形成の担い手となる人を育てる場を目指しています。また、まちかどキャンパスを地域住民が集う「場」と見立てて、公民館や集会所を活用して住民主体で行う事業のモデルを提案することも目的としています。

開設までの経緯

- 2016年4月1日 公立大学法人福知山公立大学開学：中期計画に「まちかどキャンパス」の実施が位置付けられました。
- 2016年10月 福知山市の中心市街地に開設することになり、開設場所・建物の検討に入りました。
- 2017年5月 現在地を開設場所と決定し準備に入りました。
- 2017年6月 設計については京都工芸繊維大学の建築分野の協力を得るとの方針を決定しました。
- 2017年8月～11月 基本設計・実施設計：京都工芸繊維大学阪田弘一研究室(建築)、村本真研究室(構造)に依頼し設計を進めました。
- 2017年9月24日 「地域の魅力を高める『まちかどキャンパス』の使い方を話し合う井戸端会議」：近隣の自治会・商店街(上新町、下新町、新町商店街、広小路商店街)の役員の方々に計画を紹介し意見交換する井戸端会議を開催しました。
- 2017年12月～2018年3月 改修工事
- 2018年4月 セルフビルド：壁や床、天井の仕上げ作業は、京都工芸繊維大学阪田弘一研究室の指導のもと、阪田ゼミの学生と学生企画チームDOKKOで共同作業を行いました。
- 2018年4月22日 『みんなでつくる』ワークショップ開催：セルフビルドのワークショップ「漆喰塗り大会」と活用のアイデアを考えるワークショップ「三人寄れば文殊の知恵」を実施しました。
- 2018年5月13日 開設記念式典挙行：大橋一夫福知山市長、福知山市議会の芦田真弘副議長、京都工芸繊維大学の森迫清貴学長をはじめ、自治会や商店街の関係者の皆様など多数のご臨席を賜りました。



地域の魅力を高める「まちかどキャンパス」の使い方を話し合う井戸端会議



改修工事の様子



セルフビルドに取り組む工織大と公立大の学生



開設記念式典



「みんなでつくる」ワークショップ、「漆喰塗り大会」



ワークショップのポスター

目次

- まちかどキャンパス吹風舎の概要 ————— 1P
- 活動事業報告 01 / まちかどギャラリー ————— 4P
- 活動事業報告 02 / まちライブラリー ————— 7P
- 活動事業報告 03 / まちびと起業塾 2018 ————— 12P
- 活動事業報告 04 / 学生企画チーム「DOKKO」————— 20P
- 活用状況報告 / 大学正課利用について ————— 26P
- 活用状況報告 / 多様な市民活動を支援する場 ————— 32P
- 活用状況報告 / 福知山ワンダーマーケットとの連携 ————— 34P
- 資料 / 活動事業報告 03 アンケート調査 ————— 35P

機能・空間と事業

まちかどキャンパスの機能と空間を使い、初年度試行実施した事業です。
実験的な取り組みを重ねつつ地域の人々のご意見や関わりから、恐れず変化・進化する「場」でありたいと考えています。

① Library (ライブラリー：交流する図書室・読書室)

“まちライブラリー福々BOOKS@福知山公立大学”
本をきっかけにつながりを生む、思いと本を持ち寄ってつくる小さな図書館です。

② Gallery (ギャラリー：学ぶ・感じる展示と情報発信の場)

“まちかどギャラリー” 地域で活躍する様々なジャンルのクリエイター、作家たちの仕事を紹介していました。
大学活動紹介、情報提供、大学での研究や学生のゼミ活動の成果を展示しました。

③ School (スクール：みんなで学び合う場)

福知山公立大学公開講座“井口学長塾”
学長井口先生が塾長を務める近代史をテーマにした学びの場です。参加者が運営に主体的に関わる学びのコミュニティが形成されています。

“まちびとゼミ”

地域の人々が講師となり、学びと交流の場をつくっています。今年は「福知山踊り」と「認知症」の二つのテーマで開催しました。

“まちびと起業塾” (社会起業家の育成、ソーシャルビジネス立ち上げ支援)

地域に暮らし地域で商う小さな商い起業塾を企画しました。本年度は「まちの『スキマ』で小商い」をテーマに実施しました。

④ Cafe (カフェ：出会いと交流の場)

“想て成しかふえプロジェクト (地域プロジェクト)”
学生がコーヒーを淹れるコミュニティカフェ。地域住民と学生が交流する場をつくりました。

⑤ Workshop (ワークショップ：知恵を集めて企て実践する場)

地域プロジェクト (学生企画チーム DOKKO が中心となり地域と協力して事業を実施)
“ドッコイセプロジェクト”
「大学生が福知山ドッコイセまつりを楽しみ、感じる！」をコンセプトに、踊り連を結成し、まつりに参加しました。
“ふく子屋プロジェクト”
「学び」を大きなテーマに地域の小学生と大学生が交流する会を放課後に行いました。互いに学び、成長する場をつくることを目指して活動しています。

“福おじばプロジェクト”
高齢者と学生が楽しく交流することを通して助け合うつながりをつくり、一緒に楽しく安心して暮らせる地域づくりを目指しています。地域活動への参加や交流会を開催しました。

“畑プロジェクト”
遊休農地を借り受けて野菜を育てはじめました。「野菜」と「人のつながり」を育む活動です。

“大学ゼミ活動での活用”
本学が推進する地域協働型教育の拠点施設として活用しました。ゼミ活動の演習室としての利用やイベントやワークショップなど協働実践の社会実験の場として活用されました。

⑥ 多様な市民活動を支援する場

市民活動など公益活動での利用を推進しています。予約なく利用できる少人数のミーティングから大人数で貸し切ったワークショップやセミナーなど、様々な活動に活用されました。

運営体制

① まちかどキャンパス専門委員会

まちかどキャンパス吹風舎の企画・運営について検討し実践する委員会です。
市民学習・キャリア支援センターの中に設置されています。

〈2018年度メンバー〉

委員：谷口知弘 (教授、委員長)、平野真 (教授)、中尾誠二 (教授)、加藤好雄 (准教授)

コーディネーター：俣野喬仁、西村有美

事務局：竹友良成、塩見公子、齋藤敦子

② 学生企画チーム DOKKO (ドッコ)

学生企画チーム DOKKO は、吹風舎のコンセプトに共感した学生が組織する学生チームです。吹風舎を支える大きな力です。昨年の7月、呼びかけに名乗りを挙げた2人から始まり、現在22名の学生が参加しています。チームの目的は大きく2つ、①学生と地域の協働を通して両者が成長すること。②学生と地域の架け橋を創ること、と設定しています。

活動は、①「地域プロジェクト」の実施、②地域活動への参加、③学生と地域をつなぐ活動、の3つを挙げています。吹風舎のコンセプト「大学の教職員・学生と地域の人々が集い、ひとを育てる。まちを育てる。」に重ねて学生視点で自発的、積極的に行動しています。メンバーは2年生15名、1年生7名の計22名です。

(活動については、活動事業報告 04、p20-25 参照)

利用時間・方法

開館時間

・火曜日～土曜日 午後1時～午後6時

休館日

・日曜日・月曜日・祝日

・年始年末、お盆等

利用方法

・1階「新町土間」(フリースペース)は、どなたでも利用可能(原則無料、貸し切りの場合は有料)

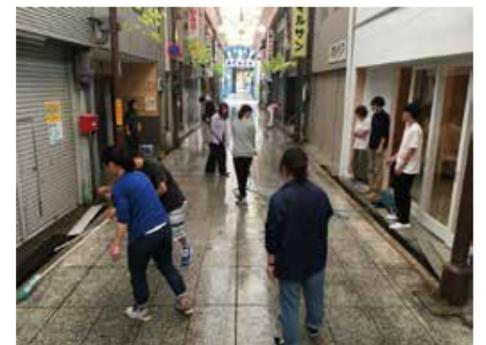
・2階「学生工房」は原則本学教職員・学生のみ利用

吹風舎の日常

小学生の男の子がやってきて、「ここは何をする場所ですか」と尋ねました。
「みんなが自由に素敵な時間を過ごす場所です」と答えました。

「大学の施設で勉強する場所」「地域の人と大学生の交流の場所」など多くの説明ができます。大学生がレポートを書いていることや、アルバイトまでの間、少し休んでいくこともあります。小学生や小さい子どもたちが大学生と遊んでいたり、絵をかいていること、中学生や社会人が会議や勉強をしていることもあります。月終わりには近所の人と一緒に大学生もアーケードの掃除をします。

5月13日のオープン以来、赤ちゃんから96歳のおばあさんまで、延べ4000人以上の方に利用していただきました。「吹風舎」に大学生がいることで、新町商店街に若者と地域の方の交流が生まれています。



まちかどギャラリー

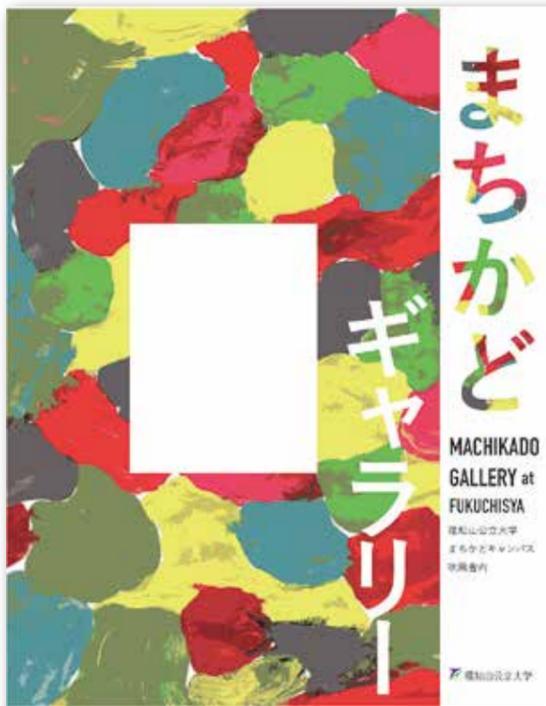
まちかどギャラリーは 市民とアート交流をする場です

2018 年度 出品作家

あらゆる人が自分を表現したがついています。技術や手法はまちまちですが、同じ時代を生きる「ひと」の温もりは、他のひとを惹きつけます。それは写真であったり、水彩画であったり、オブジェであったり、イラストであったり、あるいはインスタレーションやパフォーマンスかもしれません。ひとはひとを惹きつけるのです。ひととひとが出会う場所が私たちには必要です。まちかどギャラリーはそんな場所の一つとして、小さな壁から私たちを迎え入れてくれるのです。

まちかどキャンパスの小さな壁面を使って、このギャラリーは生まれました。町に住む人なら、どんな人でも参加可能です。思い思いの表現作品を展示し、他の人と触れ合ひましょう。作品は私たちの心の窓であり、その窓から様々な景色を眺めることができるのです。

2018 年度にこのギャラリーはオープンし、ゆったりとした時間の流れの中で、5 人の作家を取り上げてきました。お互いにそれまで会ったこともない人々の作品が、この壁面で時を過ごしました。そしてたまたま、まちかどキャンパスを訪れた人々に、その時は引き継がれていきました。これから誰が来るのか、誰がどこに向かっていくのか、何もわかりません。何も意図しない、不思議な空間がそこにあります。



まちかどギャラリー
二つ折りパンフレット



細田良郎

5/13-6/12



フォトグラファー、本庄写真館代表
厚生労働大臣認定 1級写真技士

<受賞歴>京都市優秀技能者表彰「現代の名工」受章
<全国写真展覧会出品歴>
第51回 第4部(人物部門)推薦受賞(全国1位)
第52回 第2部(日本の文化財)準特選(全国3位)
1984年 第4部(人物部門)新人奨励賞 他、入選4度
京都プロフォトコンテスト 2008年他、知事賞受賞5度
関西写真家連合協会写真展 金賞受賞2度・銀賞受賞

中根ゆたか

8/6-10/9



イラストレーター、滋賀県生。趣味はコーヒー、木工、詩の制作。行ってみたいくなるようなワクワクする風景、ユーモアの束でできている線、アザミの新芽のようなうすい緑色、自分の人生をぎゅーっとしぼったそれが、ボクのイラストのような気がします。キャンピングカーで旅をしながら仕事をしようと思論んでいるこのごろです。



<受賞歴>
・第136回ザチョイス賞準入選(選考者: John C.Jay氏)
・第137回ザチョイス賞入選(選考者: 佐藤可士和氏)
・第9回 イラストレーションノート/準グランプリ(選考者: 藤枝リュウジ氏、植原亮輔氏)
・竹尾ペーパーカレンダーコンペ入選 他、いろいろ

蘆田京子

6/13-8/5



チョークアーティスト、福井県小浜市出身
H26年1月鯖江市チョークアート アルコバレーノ講師取得
美浜町を拠点に活躍し始める
美浜町はあとびあ、敦賀市あつほうむをはじめ手作り市などに参加、親レク、子供会、サロン、個人、企業向けなど出張アート
銀行、企業のギャラリー、公民館祭りに展示
H30年5月福知山市に移住
お店の看板、ウェディングプレゼント用、似顔絵の依頼を受けています

ヒラノマコト

10/10-12/24



現代美術作家、大人向けの絵本なども出版。
<受賞歴>
第1回西武美術館版画大賞展入選、第18回アジア現代美術展受賞
講談社年鑑日本の現代版画(1984)掲載
<個展・グループ展>
東京: 銀座鎌倉画廊、中村画廊、自由が丘画廊、養清堂画廊、銀座三愛ギャラリー、東京アメリカンクラブギャラリー、京王プラザホテルロビーギャラリー、東京都美術館など
New York: JM Gallery, Sakiko Gallery, Jacob Center など

滝町昌寛

12/25~



1969年 京都市生まれ
 京都 嵯峨美術短期大学卒業
 友禅染職人、バックパッカーを経て、
 東京にてマッチ売りを始める。
 2009年頃 福知山市に移住
 マッチ売り、修験行者などを行っている。

活動事業 報告 02

まちライブラリー

「まちライブラリー福々 Books」の誕生

まちライブラリーとは… カフェやオフィス、自宅などに人々が本を持ち寄って、その場所オリジナルの本棚を作ります。その本をきっかけに人が集い、テーマを決めて語り合ったり、本を囲んでお茶会を開いたり…。ただ本を読むだけでなく、本を通じての繋がりとなる新しい図書館の形。現在は大学や病院、お寺などでも開かれ、全国650カ所近い拡がりを見せています。

学生と地域の方々の交流&学びの場として新町商店街内にオープンしたまちかどキャンパス「吹風舎」。この場所に多くの方が集い、繋がり、新たな学びを生み出していくこと、そんな「繋がり」が地域全体が増えていくことを目指し、現在全国に多数存在する「まちライブラリー」に仲間入りをしました。

地域の方から寄贈された本に感想をいただき、「まちライブラリー福々 Books」として少しずつ動き出しました。今後またたくさんの方に足を運んでいただけるスペース作りを目指します。

ギャラリートークの開催 2019.02.26

第1回ダベリング会@まちかどキャンパス

放浪画家滝町さんを
囲んで

滝町昌寛
 1969年 京都市生まれ
 京都 嵯峨美術短期大学卒業
 友禅染職人、バックパッカーを経て、
 東京にてマッチ売りを始める。
 2009年頃 福知山市に移住
 マッチ売り、修験行者などを行っている。

参加自由、吹風舎にて、2月26日(火) 13:00~



第1回ダベリング会@まちかどキャンパス

福知山市大江町在住の「放浪画家」滝町昌寛さんを迎えて、第1回目ダベリング会@まちかどキャンパスを開催し、学生5名含む17名の参加者がありました。「吹風舎」まちかどギャラリーに展示してある作品についての解説や作家活動を始めるまでの放浪旅記、マッチを売ようになった経緯など、興味深いお話しをお聞きしました。

まちライブラリー福々 Books
@福知山立大 まちかどキャンパス 吹風舎

本をきっかけに繋がろう！
まちライブラリーのススメ

2018年7月25日(水) 18:30~20:30
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎
 福知山市宇上7番(新町商店街2フロア)

講師 小野 千穂子さん
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎 (ふくちしゃ)

まちライブラリーとは？
 まちライブラリーとは、カフェやオフィス、自宅などに人々が本を持ち寄って、その場所オリジナルの本棚を作ります。その本をきっかけに人が集い、テーマを決めて語り合ったり、本を囲んでお茶会を開いたり…。ただ本を読むだけでなく、本を通じての繋がりとなる新しい図書館の形。現在は大学や病院、お寺などでも開かれ、全国650カ所近い拡がりを見せています。

講師 小野 千穂子さん
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎 (ふくちしゃ)

まちライブラリー実践者に学ぶ
本でつながる小さな図書館
まちライブラリーの
作り方と活かし方、
そして楽しみ方

2018年9月20日(木) 18:30~20:30
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎 (ふくちしゃ)

講師 工藤 真由美さん
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎 (ふくちしゃ)

講師 小野 千穂子さん
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎 (ふくちしゃ)

講師 藤本 真平さん
 福知山立大 まちかどキャンパス吹風舎 (ふくちしゃ)

まちライブラリー福々 Books 講演会 第1回/第2回の告知チラシ

今現在まちライブラリーを解説されている方をお招きして、まちライブラリーとはどういったものなのか、参加するとどんなメリットがあるか。そんな基本のお話から、人が集まる空間づくりや、魅力や活用法、可能性などについてお話頂きました。

本をきっかけにつなごう！ まちライブラリーのススメ 2018.07.25

まちライブラリー提唱者である磯井さんに来館いただき、まちライブラリーの運営方法、イベント作りのコツ、現在あるまちライブラリーではどういった事が行われているか等、今後福々 Books を作っていく上で必要な事を教えていただきました。参加者の方の中には、地域で展開したい人や、お店をされており、そこで設置したい人もおられ、この地域でもっと広がりが出来る良い機会となりました。

第1回ゲスト

「まちライブラリー」提唱者 「まちライブラリー@大阪府立大学」を開設
磯井純充さん

参加人数 25名（内 学生7名）



たまたま同じテーブルに座った人で、まちライブラリーがどうすれば色々な展開が出来るかアイデアを出し合いました。

まちライブラリー実践者に学ぶ 本でつながる小さな図書館 まちライブラリーの作り方と活かし方、そして楽しみ方 2018.09.20

ゲストで来ていただいた皆さん、三者三様のまちライブラリーの実践方法がありました。始めたきっかけは様々でも、そこに本を介して交流の場が出来る、本の力というものを感じるきっかけとなりました。

<参加者の声>

- 「まちライブラリー」というものをよく理解できました。小さなライブラリーがいっぱい広がると楽しいなー。
- ただ本が好きというだけで、「まちライブラリー」のことは何もわからずに参加しました。
- 「民主主義的なライブラリー」という、皆で作りに上げていく図書館というカタチに魅力を感じ、ワクワクしました。

第2回ゲスト

「まちライブラリー@ファレステピア主宰」小野千佐子さん
「まちライブラリー@クチュール主宰」工忠衣里子さん
「まちライブラリー@みんなの小さな図書館」重本晋平さん

参加人数 16名



まちライブラリーを運営する中で、それぞれの利点や方法を伺う事ができました。都会での展開、田舎での展開、場所に合った展開を考える必要があります。

第1回交流会

自分のお気に入りの本や絵本、漫画を持ち寄って、参加者同士に紹介し、お互いの本の魅力を語り合う。昼は「本とおやつのカフェ」として、絵本を中心とした交流会。夜は「本と音楽のバー」として、音楽の流れる中で自分のおすすめ本を紹介しました。昼と夜では全く違うイメージの本が集まり、自分ではあまり手に取らない本への関心が深まった良い会となりました。

<参加者の声>

- 他の参加者の方の本がとても魅力的でした。

実施日

8月8日

参加人数

昼・夜の部 延べ16名

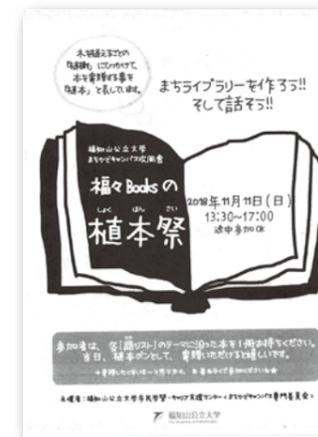


色々なジャンルの絵本が集まりました。中には久しぶりに見る本も。懐かしい〜という声と共に、話も弾みます。

2018.09.20 植本祭（福々 Books 正式 OPEN）



テーマごとに各テーブルに座り、意見を交換する参加者達。持参した本について話が弾みます。



「まちライブラリー福々 Books」を始めるオープニングイベントとして、交流会とお披露目会を兼ねた植本祭を行いました（木を植えることの「植樹」にひっかけて、本を寄贈することを「植本」と表しています）。身近なテーマそれぞれにリーダーとなる「語リスト」をお呼びし、本を交えながら交流の場を作りました。参加者に持参いただいた本は個性的なものが多く、各々のテーブルで話が弾む様子が見られました。

植本をするにあたり、テーマ毎に話してもらった事も踏まえて、オーナーズメッセージを書いていただきました。参加いただいた方はそれぞれの本への想いが熱く、試行錯誤しながら記入される姿が印象的でした。

吹風舎に設置された本棚へテーマ毎に本を陳列していくと、いつもの場所がとっておきのスペースになった様に・・・意外と簡単に出来る「まちライブラリー」が様々な場所でいろんな形で広がっていく事を期待します。

<参加者の声>

- 本の紹介だけでなく、参加者の皆さんと交流できて楽しかったです。
- 思い出ある本の話をしていると、自分でも忘れていた本以外の思い出を思い出すことができました。
- 語りの時間はよく知ってる人同士でしたが、新町商店街を案内していただけで大変良かったです。また吹風舎という場所もいいなと思いました。



参加人数 21名（内 学生3名）
当日寄贈いただいた本 12冊

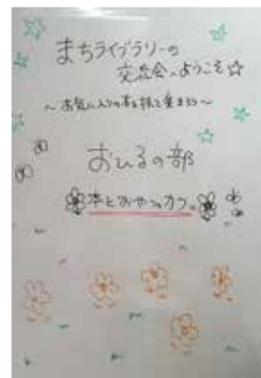
第2～5回 交流会



告知チラシ

本の話から、その本を買ったきっかけ、その頃何をしていたか、どんな苦労があったか・・・本に関わる話は、終わりがありません。

自分のお気に入りの本や絵本、漫画などを持ち寄って、参加者同士で紹介し、お互いの本の魅力を語り合う。途中から昼と夜の部を合わせて行う形式へ変更しました。地域の本好きな方の交流の場として、定着しつつあります。少人数制でゆっくりと話せるので、自分が持ってきた本への想いを全て紹介することが出来、聞いている側も質問が気軽に出来る雰囲気を作ることができました。持ってきていただいた本は、参加者の意思で寄贈をしていただく事もできました。



<参加者の声>

- ゆっくりと他の方の推しの本を紹介していただけて貴重な機会でした。
- 楽しかったです。アウトプットできる様に頑張りたいです。
- 色々な本を紹介して頂き、ありがとうございました。楽しかったです。
- とても勉強になり、楽しかったです。充実した時間を過ごす事ができました。
- 色々な本に出会えました。本を通して色々なことを聞けて良かった。
- 自分では手に取ることのない本と出会う事が出来るのが素敵だなと思います。
- 楽しかったです。本を通して、人となりが見える様で。



実施日・参加人数
 第2回 10月13日 4名
 第3回 12月5日 5名
 第4回 1月19日 5名
 第5回 2月16日 7名

合計 21名
 寄贈いただいた本 5冊

イベントを絡めた交流会

消しゴムハンコで Let's 蔵書印 ～蔵書印にまつわるお話会～

ワークショップと講演会の2部構成で行う蔵書印のイベント。本に対して、さらに関心や知識を深める機会となりました。



告知チラシ

自分の持っている本に押し、自分の本だと伝えるハンコ。それが蔵書印です。どんなデザインにするかはその人次第で、オリジナルの蔵書印を作るワークショップとなりました。



夜からは、古本と珈琲モジカの店長であり、ブックキュレーターの西村優作さんをお呼びし、蔵書印にまつわるお話をさせていただきました。西村さんがお持ちの蔵書印に関する資料を拝見したり、日中参加者が作成した蔵書印を披露するなど、個々の作成物に対する愛着が深まる講演会となりました。

実施日
 2月26日

参加人数 述べ17名

まちライブラリー公式登録



全国に600箇所以上を展開する「まちライブラリー」。この度、福々Booksも公式登録しました。

様々なイベントや繋がりを通じて寄贈いただいた本。ページの最後には、寄贈いただいた方の本への想い「オーナーズメッセージ」が綴られます。

古本ですが綺麗な状態で読書いただけるように、一旦カバーを外し長年の埃を拭き取り、透明のフィルムをかけます。その後、まちライブラリー登録をしたら、完成です。「オーナーズメッセージ」を見ながら、お気に入りの本を借りて帰る事ができます。

「まちライブラリー」 <http://machi-library.org>

まちびと起業塾 2018

まちの「スキマ」で小商い ー学びと発見編ー

まちの各所に点在する空き家、空き室、集会所、通り、空地など、有効に活用されていない資源。当講座では、そのようなまちの資源を、「スキマ」と見立てて、「小商い」により運営費用をまかないながら有効活用していく動きが1つでも多く芽吹いていくことをめざし、開催しました。1年目である今年度は、「学びと発見編」と題し、先進事例に「学び」、活用できる空間や事業のアイデア、仲間や自分の生かし方などを「発見」することに力点を置き、市民講師による全6回の講座と、市内の集会所をモデルケースとした演習を行いました。各回講座には、自ら起業を考える方、自治会関係者、行政関係者、学生など多様な参加者が集まり、先進事例に触れるとともに、参加者同士の意見交換などを行いました。

PART 1 スキマ＝空き室

■日 時／2018年11月14日(水) 19:00-21:00

■講演者／椋平 芳智さん(京都府建設交通部住宅課)
水野 美代子さん(京都市北区 建物所有者)
岡本 和哉さん(京都工芸繊維大学 学生)

■概 要／自宅の空き室を学生に提供し、同居する新しい下宿の形「京都ソリデール」の概要やはじめ方の説明、また、実際に同居されている建物所有者・学生に実施の「暮らしの様子」についてご紹介いただきました。

■参加者／14名



<講演レポート>

フランス発祥の新しい下宿の形「京都ソリデール」。京都府では学生へ低廉な家賃の住まいを提供し、就学を支援することを主目的として、府内全域でこの取り組みの実践を促進しており、京都府住宅課椋平さんより「京都ソリデール」の概要や始め方について、ご紹介いただきました。福知山市でもこの「京都ソリデール」に取り組む高齢者・学生のマッチングが進められていますが、京都市内ではすでに同居されている例が多く出てきています。

椋平さんに続いて登壇いただいた、京都市在住の水野さん・岡本さんもその先進事例の一組。血縁関係のない他人と同じ住居に住むことは、多くの方がすんなり受け入れられないことだと思いますが、今回暮らしの様子をお話いただいた水野さん・岡本さんは、“付かず離れず”の程よい距離感をとって、互いの存在を無理なく受け入れて、生活されている印象を受けました。建物を提供している水野さんも、日々気軽に話ができて、些細な頼みごとなどができる学生との同居に、充実感を感じておられるようでした。



水野美代子さん(右)、岡本和哉さん(左)

<まとめ>

建物所有者や自治会関係者などが参加された今回。この「京都ソリデール」は、これまでも福知山市内で広報が行われてきましたが、今回の講義では、登壇者と参加者が気軽に意見交換し、京都ソリデールの実態を細かいところまで知る機会となり、京都ソリデールに対する印象も変わるきっかけになったことでしょう。

全講義案内チラシ

演習編案内チラシ

PART 2 スキマ＝公共空間

■日 時／2018年11月30日(金) 19:00-21:00

■講演者／中原 大輔さん(まちづくりプランナー)

■概 要／城下町の商家群で毎年3万人もの来場者を集めた「ササヤマルシェ」(兵庫県篠山市)、昔ながらの市場で開かれるフードマーケット「あおぞらランチ」(兵庫県豊岡市)など、公共空間を活かした様々な取り組みについてご紹介いただきました。

■参加者／23名



<講演レポート>

29歳頃に兵庫県篠山市で観光関連の業務を行う会社を起業し、その業務の一環として公共空間の活用を始めたという中原さん。もともと篠山市は秋の特産品収穫時期には多くの観光客が訪れる場所でしたが、中原さんの会社で「ササヤマルシェ」を開催したところ、これまで比較的少なかった若年層が多く訪れるようになりました。立ち上げ時期は住民との調整や出店者集めなどに大変苦労されたそうですが、年数を重ねるごとに開催を楽しみにしてくれる固定ファンも増え、篠山の知名度も高まり、またこのイベントをきっかけに篠山に出店する店舗も現れ、当初の目標は一定果たされたと感じているそうです。

「あおぞらランチ」は、中心市街地の市場通りを活用した住民向けのイベント。これまでに中心市街地に来ることのなかった客層が訪れるようになり、少しずつ通りに賑わいが出てきているそうです。昨今では、あおぞらランチがきっかけとなって、他の団体がこの通りを活用したイベントを実施したり、空き店舗活用事業の実施に向けた動きが始まるなど、派生した取り組みも進んでいます。



ササヤマルシェの様子

<まとめ>

福知山周辺でイベント開催に関わる方々など、多くの方が講義に参加されました。中原さんの若年層を惹きつけるブランディング、地域の方々や取り組みへの協力者を巻き込む取り組みなどは大きな“学び”のポイントとなり、参加者からも多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

PART 3 スキマ＝空き家

■日 時／2018年12月14日(金) 19:00-21:00

■講演者／沢田 さやかさん(古民家の宿 ふるま家)
中尾 誠二さん(福知山公立大学 教授)

■概 要／昨今の民泊に関する法改正の動きの紹介とともに、空き家となっていた茅葺屋根の古民家をセルフビルドで改修した農家民宿「ふるま家」(福知山市三和町)の概要や立ち上げに至る経緯などについてご紹介いただきました。

■参加者／17名



<講演レポート>

脱サラ、世界旅行ののちに、福知山市三和町の古民家を買取り、セルフビルドで改修し、農家民宿として開業された沢田さん。2年以上の歳月を費やした古民家改修時の苦労や、地元食材の使用、自然エネルギーへのシフトといった農家民宿事業を行う上で大事にされていること、経営のポイントなどをお話しいただきました。

長く海外に滞在していた沢田さんはその経験を生かし、外国人観光客向けの広報に力を入れており、宿泊客の約半数を外国人が占めているそうです。

のちに登壇いただいた中尾教授からは、昨今話題の「民泊」について、新たな法改正の動きとそれに伴う農村部での(合法、非合法含めた)開業状況などをご紹介いただきました。また、農村部での農家民宿成功の鍵は、沢田さんのケースのような外国人観光客の呼び込みであることも、お話しいただきました。



古民家の宿 ふるま家

<まとめ>

空き家所有者、農泊事業に関心のある方など、多くの参加者が集まる回となりました。空き家の活用方法としての農家民宿の魅力や苦労に加えて、経営のポイントについて、売上等の数字を交えながら具体的にお伝えいただきました。今後増加が見込まれる外国人観光客の呼び込みも見据えると、福知山周辺でも多く点存する空き家(古民家)の活用方法として、大いに参考になる事例でした。

PART 4 スキマ＝廃校

■日 時／2018年12月26日(水) 19:00-21:00

■講演者／今井 進さん(合同会社里山工房くもべ 代表)
井上 郷太郎さん(福知山市 資産活用課)

■概 要／廃校となった旧雲部小学校(兵庫県篠山市)を活用し、コミュニティカフェや工房などが入居する「里山工房くもべ」を運営する住民主体の組織「合同会社里山工房くもべ」の取り組みの概要や立ち上げに至る経緯などについてご紹介いただきました。

■参加者／12名



<講演レポート>

兵庫県篠山市東部に位置し、平成22年に廃校になることが決まった旧雲部小学校でしたが、小学校は住民にとってかけがえのない場所であるとの思いから、300人を超える地域住民などの出資のもと「合同会社里山工房くもべ」を設立し、市から施設を借り受けて、複合施設としての活用を始めました。

里山工房くもべの立ち上げは、外部人材を加えて複数年に渡って慎重に検討を重ね、現在地元食材を活用したコミュニティカフェ、地元野菜や工芸品等の直売スペース、調理場、アトリエ(革工房、靴工房、木綿工房などが入居)、レンタルスペース等として活用されており、地域住民のみならず、地域外からも多くの方々が訪れます。

質の高いサービスが受けられる当工房は、メディア露出も多く人気の施設ではありますが、経費支出の相当額必要であり、決して楽ではない経営事業も赤裸々にお話いただきました。



旧 雲部小学校

<まとめ>

地域の自治会関係者や、廃校活用に関心のある事業者など、多くの参加者が集まりました。福知山市内でも廃校活用はホットトピックであり、商業的な利用例として、大変参考になる事例でありました。住民自らが当事者意識を持って、外部人材をうまく取り入れながら運営されており、多くの課題は認識されているものの、その課題に向き合うだけの力が蓄積されている印象を受ける例でありました。

PART 5 スキマ＝郊外既存施設

■日 時／2019年1月18日(金) 19:00-21:00

■講演者／柿迫 義昭さん(有限会社タナセン 農事部長)
井上 郷太郎さん(福知山市 資産活用課)

■概 要／使われなくなった既存施設(JA 販売所)を活用した集落の生活拠点(小さな拠点)「ムラの駅 たなせん」(南丹市美山町)を運営する住民主体の組織「有限会社タナセン」の取り組み概要や立ち上げの経緯などについてご紹介いただきました。

■参加者／12名



<講演レポート>

ムラの駅たなせんを中心とした、鶴ヶ丘地区での取り組みをお話いただきました。高齢化が著しく、都市部からも距離がある鶴ヶ丘地区では、買い物難民、コミュニティの希薄化など、様々な地域課題が顕在化しています。

ムラの駅たなせんでは、地域の拠点施設として、食品・日用品の販売のほか、住民の交流スペースの設置、移住者を中心とした若年層のイベント開催場所の提供、観光客等の来訪者への地域案内、電気自動車への電源提供等を行なっています。また、当施設に拠点を置く有限会社タナセンが、地域の見守りや野菜の集荷、雪かきなど、地域へ「出張」して、住民に必要なサービスを提供することもあります。

小さな地域だからこそ、住民一人一人の顔を見て、助け合う。ムラの駅たなせんは、小さな拠点として、地域にはなくてはならない役割を果たしています。



ムラの駅 たなせん

<まとめ>

自治会関係者や廃校活用を検討されている方々など、多くの参加者が集まりました。福知山市内においても廃校や集会所の活用は、さまざまな地区でまさに検討されており、ムラの駅たなせんは、あくまでもハード施設であり、地域の課題解決に当たっては、ハード整備と共に、地域住民に寄り添ったソフト面での仕組みの整備が重要であることを、強くお伝えいただきました。

PART 6 スキマ＝集会所

■日 時／2019年2月1日(金) 19:00-21:00

■講演者／大槻 保政さん(観音寺自治会スマイルサークル代表)
中嶋 善彦さん(福知山市 まちづくり推進課)

■概要／地区の集会所である「観音寺公会堂」(京都府福知山市観音寺地区)を、ラジオ体操や定例ウォーキングの実施などの、地域住民のコミュニティ拠点として活用している観音寺自治会の取り組みについてご紹介いただきました。

■参加者／20名



<講演レポート>

観音寺自治会では、大槻さんが自治会長就任を機に、集会所の利用促進も見据えて、集会所を使ったラジオ体操やウォーキング、調理教室など、地域住民の健康増進に関する取り組みを始められました。これらの活動は、大槻さんはじめ運営の中心となるメンバーが根気強く継続しており、参加する住人は徐々に増えていきました。現在は、年中ほとんど休まずに何らかの活動が実施されています。

これらの活動の甲斐あって、定期的に取り組みに参加している住民が病院に通う回数は、目に見えて少なくなっているそうです。また、これらの取り組みは健康増進のみならず、地域の高齢者の見守りや、地域のコミュニティ形成、また地域内の危険箇所や補修が必要な箇所の発見、災害時の対応を日常的に共有する機会にもなっており、地域の“暮らしやすさ”を様々な面で高める取り組みとなっています。



ラジオ体操の様子



歓談を楽しむ住民の皆様

<まとめ>

自治会関係者を中心に、多くの参加者が集まる回となりました。福知山市においても課題となっている集会所の活用について、地域コミュニティの拠点としての有用性を感じさせる事例でありました。健康増進に関する取り組みはコミュニティ単位で取り組むことが効果的であると考えられ、すぐにでも実践していきたい取り組みでありました。

FIELD WORK 演習編 スキマ＝集会所 -けやき集会所を例に-

■日 時／2019年3月3日(日) 13:30-15:30

■コーディネーター／福知山公立大学 谷口 知弘 教授
俣野 喬仁

■参加者／まちびと起業塾2018 講義参加者・内田町住民・行政職員など

■協力／内田町自治会の皆さま
井上 郷太郎さん(福知山市 資産活用課)
中嶋 善彦さん(福知山市 まちづくり推進課)

■概要／今年度の本講座の総括として、実際に今後のあり方について検討が進められている福知山市内田町「けやき集会所」をモデルケースに、「スキマ」の活用に向けた検討演習を行いました。

■参加者／10名



地域・集会所の現状整理

<講演レポート>

現在、所有や活用のあり方について、全市的に検討が進められている集会所について、市より検討方針や活用検討にあたって留意すべき点、活用事例などをご紹介いただきました。

その後、今回のスタディモデルである「けやき集会所」の立地する内田町の地域特性(住民の属性、近隣施設、災害履歴など)や、現在の集会所の活用内容やその頻度、維持管理に要する費用、また集会所の運営を担う自治会の活動状況などについて情報共有しました。

現状を確認する中で浮かび上がってきた集会所の現状・課題を踏まえ、参加者同士で、これからの集会所の活用方法や運営の改善方法について意見を出し合うグループディスカッションを行いました。今まであまり集会所を利用して来なかった若年世代の利用促進や、福知山公立大学と連携した新たな活用方法の可能性が挙げられたとともに、災害時の拠点機能などについては、引き続き維持、強化して必要性があることなどが挙げられました。



演習の様子

<まとめ>

福知山在住者を中心とする様々な地区から演習参加者が集まりました。事情は多少異なれど、多くの地区で、集会所の活用や維持管理は課題となっています。世代や立場、居住地の異なる参加者同士で、違いを認め合いながら議論を行うことで、これまで意識していなかった利点や課題を改めて認識し、新しい視点で集会所を捉え、意見交換することができました。

福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎 学生企画チーム「DOKKO」

私たち DOKKO は、まちかどキャンパス吹風舎を拠点とする学生団体です。地域と共に挑戦、成長し、学生と地域の架け橋を創ることを目的に活動しています。活動の内容は大きく分けて3つに分かれます。

1つめは、学生自らが感じた問題意識や興味、やりたいことなどを地域で具現化する「地域プロジェクト」です。この取り組みでは、学生の主体性を伸ばし、学生の持っている力や疑問を地域にぶつけます。

2つめは、地域のイベントや地域で行われる様々な行事への参加です。運営側として関わる事もあれば、ボランティアとして関わる事、また参加者としてなど様々な関わり方をします。

3つめは、他の学生と地域をつなぐ活動です。この活動では、大学生が福知山での生活がより楽しく、有意義になることを目指し、福知山の情報発信や地域活動の勧めなど街中へ出て行く仕組み作りです。

学生は、地域に入ることによって学校の講義や日常生活では得られない学びや気づきを得るだけでなく、地域の方々と繋がることで、価値観や情報、新しい繋がりなどを広げ自分を伸ばします。地域にとっては、私たち学生の活動が笑顔を増やし元気になる素の一つになればと願っています。また、学生の若い力や考え方と触れ合うことで、自らが暮らす地域の未来を考える刺激になればと思います。

このように学生と地域が互いに刺激しあい、成長しあう。そして助けあい、笑いあう。そんな団体です。

「DOKKO」メンバー

2回生



1回生



企画1 ドッコイセプロジェクト DOKKOメンバーで、福知山の夏を盛り上げよう!

<活動メンバー>

2回生：田中奏 宮内瞭輔 上埜妙子 上野裕也 小林達彦
小林冠太 谷口ますみ 村上大輔 1回生：井坂彩乃

<概要>

福知山ドッコイセまつり・プラカードコンテストに吹風舎の学生企画チームで「連」を作り参加しました。福知山公立大学は全国から学生が集まっているため、夏になると帰省します。しかし、夏には福知山でのイベントが多くあります。特に伝統文化である福知山音頭を踊る福知山ドッコイセまつりは、公立大学生ならば体験すべき行事です。そこでメンバーを募り、福知山音頭の歴史を学び、踊りを習い、プラカードを作り、福知山の夏の夜に新しい風を吹かせることができました。

<目的>

福知山の伝統文化を知り、お祭りに参加することによって、新町商店街やご近所の方や祭りに参加している方々との交流を図ります。学生にドッコイセを知ってもらい、今後、参加しやすい環境を整えるための窓口になります。福知山ドッコイセまつりに大学生が参加することで地域に馴染み、福知山公立大学のアピールをします。



<活動内容>

事前講習会で福知山踊振興会の方々から福知山音頭の歴史や踊りを教えていただきました。また、各々個人で各地域で行われる踊りの練習会に参加し、8月14日におどり連として参加しました。また8月24日に行われたプラカードコンテストにはプラカードを作成し踊ることで「広小路商店街振興組理事長賞」を頂きました。12月に行われた福桔祭にて、福知山踊振興会の方々と一緒に踊りを披露しました。



<成果>

●学生にとって

「福知山ドッコイセまつり」に参加することによって、福知山の伝統文化にふれ、福知山という地域を知り楽しむことが出来ました。また実際に地域の方からお話を聞き、一緒に踊ることによって地域住民と学生の新しい出会いが生まれ、コミュニティをつくる事が出来ました。

●地域にとって

年々福知山ドッコイセまつりに参加する人が減る中で、大学生の活気で盛り上げることが出来ました。また、まちかどキャンパスの学生が参加する入り口になり、来年度以降の福知山ドッコイセまつりでは、広く公立大学生が参加することに期待がされています。

●学生の声

踊りで地域の方々と一つになれました。疲れも忘れて2時間以上も踊り続け、すごく楽しかったです。

企画2 想て成しかふえ

<活動メンバー>

2回生：早川昂樹 酒生阿弥華 新宮玲旺

<概要>

「想て成しかふえ」は地域の方々と学生が交流する場を提供することをコンセプトにしたカフェです。新町商店街と協力して2018年6月から隔週木曜日の午前9時から午前12時に9回行いました。学生は、地域の方にコーヒーの淹れ方を教わり、自分たちでコーヒーを提供できるようになりました。ホットコーヒーを200円(学生価格150円)夏場はアイスコーヒーを200円で提供しました。今年度は6月から2月まで実施予定です。(夏休み、冬休みは休業)



<目的>

カフェを通じて、地域と学生をつなぐ場をつくり、まちかどキャンパスが地域交流の拠点となることを目標としています。また、学生が淹れたコーヒーを飲んでもらうことにより、話の起点を探り学生と地域の方との接点を創り出します。



<活動内容>

隔週木曜日の午前9時から午前12時までの3時間店を開きました。対象は学生と新町周辺(上新、下新、長町、呉服町、鍛冶屋町など)の地域住民の方です。開催日と参加人数は次の通りです。[6月14日(17人)、6月28日(16人)、7月12日(7人)、7月26日(6人)、11月1日(11人)、11月12日(7人)、11月29日(8人)、12月13日(12人)、1月24日(5人)]
認知度を少しでも上げるために新町周辺のご家庭にピラを配りました。また、クイズ大会を開いたり、学生の地元の話をする事で、コミュニケーションの場となり、カフェの内容を充実させることができました。

<成果>

学生にとって、コーヒーを淹れて地域住民に提供できるという体験はとても貴重なものになりました。また、金銭のやり取りを経験することでとてもいい勉強になりました。

課題としては、地域での認知度を高めることができず常連さん以外は来ていただけませんでした。次年度以降、広報を頑張りたいと思います。

<地域の声>

●吹風舎で朝ごはんが食べたい。 ●英会話教室など開催してもらえたら嬉しい。

<学生の声>

●出張カフェしてみたい。 ●食べ物も提供できるようになったらやりがいになる。

企画3 ふく子屋

<活動メンバー>

2 回生：森岡信照 小林達彦 新宮玲旺 1 回生：三根楓子

<概要>

吹風舎において、大学生と近隣の小学生が隔週の水曜日午後4時から5時半までの間に学びを通して交流をすることで、互いの成長を目指しています。今年度は2018年の9/29、10/10、10/24、11/14、11/28、12/12、12/19、2019年の1/16、1/23の計9回実施しました。

<目的>

ふく子屋は、地域の小学生と大学生が交流することにより、互いに学び、成長する場をつくります。小学生が、大学生を身近に感じることでできる活動をします。

<活動内容>

隔週水曜日の午後4時から5時半までの間、小学生が学びになるようなレクリエーションを企画して行うとともに、小学生が自主的に持ち寄った宿題などの学習のサポートを行いました。レクリエーションでは座学で学習することだけが学びではないということを体現するような内容（虫食いことばゲームなど）を心がけました。



<成果>

今年度発足の企画であり、プロジェクトを開始するまで榎明小学校や教育委員会などとの調整などが難しく、練り上げていくのにかなりの試行錯誤と時間を要しました。その上で開始しましたが、「学び」に対する子どもたちとの価値観の違いに戸惑いました。大学の授業では体験できない実践学習ができたので課題解決の能力を身につけるいい機会になりました。子どもたちが「吹風舎」を利用することで、多世代交流となり、大学生、小学生、双方にとって、とても良い学びとなっています。地域で知り合いとなった小学生とすれ違うと元気な挨拶をしてくれます。保護者ともよい関係を築けています。地域を元気にさせる原動力こそが子どもたちが持つ力だと思います。

<地域の声>

●大学生がとても親しくしてくれて優しいです。
●家に帰ってからも大学生の話題が出たり、勉強の日以外も遊んでくれるので、うれしい。

<学生の声>

●子どもたちが持つエネルギーは無限だと感じ、子どもたちと学び成長するためにはどのように関わっていけるのかについてこれからも考えていきたい。
●成長するためにどのように関わっていけるのかについてや多世代交流についてこれからも考えていきたい。

企画4 福おじば

<活動メンバー>

2 回生：小林冠太 山元翔吾 上野裕也
1 回生：井坂彩乃 土屋舞莉奈 青木英里奈

<概要>

メンバーは地域のおじいさん、おばあさんと楽しいことや、助けになることをしたいと思っています。高齢者と学生が交流することにより、互いに新しい発見があるのがこのプロジェクトの魅力です。

<目的>

福おじばプロジェクトは、学生が福知山を第二の故郷と思えるように、高齢者との交流を通して地域の良さ、人の良さを伝える取り組みです。高齢者と学生が互いに刺激し合う関係をつくり一緒に楽しく安心して暮らせる地域づくりを目指します。

<活動内容>

福知山にもっと思い入れを持つ機会をつくりたいと思い高齢者と触れ合う交流会を企画、10/31に焼き芋パーティー、12/18に新町商店街の役員の方々との食事をしました。また、週に1回、地域の自治会が開催するラジオ体操に参加することで交流を持ち、繋がった方々とクリスマス会(12/12)やお誕生日会(1/27)に参加しました。これらの活動を通じて、子どもが旅立ち寂しくなっている家庭に学生が関わることによって楽しみや喜びを増やせたらと願っています。

<成果>

ラジオ体操に参加することで上紺屋町ラジオ体操部の誕生日会などの交流会にも行かせていただくことができました。今後、大江パワースポット巡りなども計画しています。朝早起きをしてラジオ体操に行くという小さなことから、大きな交流につながることを学びました。今後はラジオ体操部だけではなく、様々な地域住民の方との交流を目標にしていきます。

<地域の声>

●大学生が地域の活動に入ってくれて嬉しい。
●同世代ばかりの集まりより、大学生が来てくれた時の方が地域の方もイキイキしている。
●同日にデイサービスと大学生と触れあえるイベントがあった際、大学生のイベントに来たいと思うくらい楽しみにしている。

<学生の声>

●地域の方々と色々関わられる機会が得られて学びを感じている。
●これからも継続して地域の異世代の方と仲良くしていきたい。



上紺屋自治会ラジオ体操部の誕生日会に参加

企画5 畑プロジェクト

<活動メンバー>

2回生：上埜妙子 谷口ますみ 田中奏 小林冠太 近藤天音 早川昂樹 山元翔吾
1回生：土屋舞莉奈

<概要>

大学近くに、12月から畑を借り野菜づくりを始めました。大学生と地域住民が畑で野菜と人とのつながりを育てます。

<目的>

使われていない畑を使って大学生が野菜を育てるだけでなく、地域の人とのつながりを育てる場を作ります。

<活動内容>

大学生や福知山市街地に住む農家ではないけれども土いじりが好き、やってみたいという人と週一回のペースで作業日を設け、畑で野菜を育てています。日々の管理はプロジェクトメンバーが交代で行います。プロジェクトメンバーには大学生だけでなく市民にも募集をかけ、一緒にプロジェクトを進めてく予定です。育てた野菜をそのまま食べたり、料理をしたりするイベントも不定期で開催し、農業に興味がある人だけの集まりではなく幅広い人たちが関わる事ができる開けたプロジェクトを目指します。



<成果>

地元の方の紹介で畑をお借りし、ソラマメを植えて育てています。ソラマメの様子を見に行ったときに、畑近隣の住民の方が様子を見に来てくれることをありました。畑の場所は大学から徒歩10分ほどの場所ですが、住民の方と大学生が関わる機会は少ないことを実感しました。このプロジェクトをそんな住民の方と大学生が関わるきっかけにしたいと思っています。

<地域の声>

- 使われてない畑を使ってくれるのは助かるなあ。
- 大学生が農業に興味持ってくれるのは嬉しい。

<学生の声>

- 土いじりって楽しい。
- 植物って手をかけた分だけ育ってくれるからいいよね。
- 私も家で何か育ててみようかな。



企画6 LINK topos 2018 in 静岡

<参加メンバー>

2回生：上埜 妙子 上野 裕也 小林 冠太 小林 達彦 田中 奏 谷口 ますみ 宮内 暁輔 森岡 信照
1回生：井坂彩乃 土屋舞莉奈
教員：まちかどキャンパス専門委員会 谷口 知弘

<概要>

LINK topos 2018 in 静岡（公立大学学生ネットワーク及び全国大会）は、平成23年3月11日の東日本大震災に際し、全国の公立大学で展開された被災地支援・地域防災の活動をきっかけに、全国の公立大学の学生をつなぐネットワークとして発足、平成25年に第1回全国大会を開催、その後毎年開催されています。

第6回大会となった今年度は、全国から過去最高の41公立大学、163名の学生と約20名の教職員が静岡に集まりました。本学からは、福知山公立大学まちかどキャンパス「吹風舎」学生企画チーム「DOKKO」のメンバーの内10名と教員1名が参加、初日は団体の活動紹介、2日目は分科会に分かれての課題解決ワークショップに取り組み、3日目は学長会議と合流しての団体活動を紹介します。ポスターセッションで発表を行いました。



<学生の感想>

- 私たちの福知山公立大学は北近畿唯一の大学であり、周りに大学がありません。他大学との交流は少なく、メンバーにとっても私にとってもいい刺激になりました。また、改めて人とつながる面白さを感じました。人それぞれ持っている知識、経験が違い、ワークショップ等を通して自分をぶつけ合い生まれる新しいものは、1人で考えるものとは比べものにならない、良さがあると感じました。
- 私はDOKKOの地域活動プロジェクトで、何をしたいかを考えている段階です。他大学で行われている事例を学ぶことで、これから私たちが行っていく社会貢献を考えていく良い機会になりました。



大学正課利用について

2018 年度

吹風舎でのゼミナール活動

平野 真（地域経営学部教授）

2年生のゼミで、学生たちが吹風舎で子供達や高齢者の方々と昔遊びを使って交流したい、という企画を持ってきました。めんこやけん玉など、日本の昔の遊びを使って、町の人々と交流し少しずつ町の人の気持ちを理解できるようになりたいとのことでした。

同じ2年生のゼミで、福知山の伝統工芸の大江二俣和紙を広めるため、吹風舎の壁に和紙を張って、和紙カフェを開いてみたい、という学生たちもいました。彼らは、地元の小中学生と一緒に作った和紙の灯籠も吹風舎の周辺に飾り、カフェの雰囲気を盛り立てていました。吹風舎にきた人と、和紙灯籠作りも行なったそうです。

また1年生のゼミでは、たまたまこの和紙カフェのことを新聞で知って興味を持ったろうあ者の方々と吹風舎にお招きし、一緒に和紙灯籠作りを行いました。学生たちは、最初は四苦八苦していましたが、すぐにスマホで手話のページを見つけ出し、手話を使って会話したのには感心させられました。



10/18 和紙染めワークショップ

木曜日の会（聴覚障害のある方たちの集まり）との和紙染め体験をしました。和紙染めを一緒にしながら、手話を教えていただき、楽しい時を過ごしました。



7/28 和紙カフェ

学生たちが染めた和紙で灯籠を作り、和紙カフェを開きました。多くの方が来てくださり、市民の方に興味を持っていただきました。



6/24 「昔遊び」ワークショップ

ワンダーマーケットの催しで「昔遊び」ワークショップを行いました。かるた遊びやめんこ合戦、おりがみ、けん玉など、大学生と一緒に子供たちやお年寄りが遊びました。



吹風舎でゼミ発表を行って ～ワンダーポスターセッション～

杉岡 秀紀（地域経営学部准教授）

「まちは道と未知が重なるところ」という言葉があります。その言葉になぞらえて言えば、新町商店街におけるワンダーマーケットとは、まさに「商店街の可能性とワンダー（未知）なる可能性が重なるところ」と言えると思います。

そんなワンダーな場である新町商店街は吹風舎にて、2018年12月23日、ゼミ活動の展示を行いました。内容はゼミ（キャリア探求）で取り組んできた研究「防災と言わない防災のススメ～「遊び」から「学ぶ」防災～」の発表です。このポスターそのものは大学コンソーシアム京都が主催する「京都から発信する政策研究交流大会」で発表した内容と同じでしたが、研究対象が福知山であったため、むしろ吹風舎で聞いてもらった人の方が関心を高く持ってもらえた気がします。

何より、政策研究交流大会と違い、どんな方が来られるかわからないという意味において、学生にとっても「ワンダー（ドキドキ）」な1日となりました。

ご覧頂いた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。



「防災と言わない防災のススメ～「遊び」から「学ぶ」防災～」について説明する学生



The posters include the following content:

- 1. 要旨・問題提起**: Introduction to the research on disaster prevention through play and learning.
- 2. 防災意識調査**: Results of a survey on disaster awareness among students.
- 3. 政策提言「防災と言わない防災」**: Policy recommendations for disaster prevention through play and learning.
- 4. 政策提言（実践報告）**: Practical reports on disaster prevention through play and learning.
- 5. 結論**: Conclusions of the research.
- 6. 残った課題**: Remaining issues and future research directions.
- 7. 参考文献**: Bibliography of the research.

2018 年度

まちはキャンパス～吹風舎を拠点に地域で学ぶ

谷口 知弘（地域経営学部教授）

地域経営演習Ⅲ～知恵を集めて未来をつくる場「ワークショップ」の理論と実践を学ぶ

2回生のゼミでは、まちかどキャンパス吹風舎を教室に演習を行いました。前半は、吹風舎の新町土間をフル活用して体験を通してワークショップの理論と技法を学びました。後半は、日々の暮らしや地域を見つめ直し、共通する関心のテーマで4つのチームを作り、吹風舎を会場に地域と協働でワークショップ「暮らしとまちを見直す井戸端会議」を開催し実践力を養いました。

次の4つのテーマ、4つのチームで実施しました。

- 握って語っておにぎりワークショップ（食）
- 光秀知っとこスタンプラリー発案ワークショップ（歴史）
- ドッコイセと腰を上げてドッコイセのみらいを考えよう（祭）
- 空き家を地域資源に！～学生×地域でつくりだす〇〇空間（空間）

「大学」と言うとうもハードルが高いように受け取られがちですが、商店街にあるサテライトキャンパスを会場に開催することで、市民のみなさんには気軽にリラックスしてご参加いただけたのではないかと思います。多様な価値観や世代が集い話し合う創造的な場づくりにはピッタリの「場」だと実感しました。



キャリア探求Ⅰ・Ⅱ～問題発見から解決を試みる小さなプロジェクトの実践

3回生ゼミでは、まちかどキャンパス吹風舎のある新町商店街界隈をフィールドに地域社会の問題解決を題材に小さなプロジェクトを二つ実践しました。

①ふるさとの味プロジェクト～「学生のふるさとの『味』交流会」

吹風舎のご近所の自治会ラジオ体操部の協力を得て準備を進めました。まずは、週1回ですがラジオ体操に参加することから始め、つながりをつくり、試食会や本番でご協力いただきました。12月16日の交流会では30名をこえるご近所さんが集まり、学生の郷土料理をとっても喜んでいただきました。予想以上の成果を得ることができたこと、自治会ラジオ体操部との協力があってのことと感謝しております。

②古着プロジェクト～Team SAMURAI「Tシャツアートと環境問題 in 福知山ワンダーマーケット」

吹風舎を会場に、福知山ワンダーマーケットが開催された1月の第4日曜日にTシャツアートの展示とワークショップを行いました。Tシャツアートの展示や広報では新町商店街の役員の方々に協力いただきました。福知山ワンダーマーケットの集客力に助けられ、30名ほどの参加者を得て学生たちは貴重な実践体験をすることができました。

地域の方々とつながり協働する過程で、学生は姿勢や態度を学び大きな気づきを得ることができました。学生の相談相手になり知恵やつながりを貸していただいた地域のみなさまに心より感謝申し上げます。



多様な市民活動を支援する場

吹風舎はレンタルスペースとしても機能しています

「大京都 2018 in 福知山」アーティストトーク実施報告

福知山市内各所にて実施した京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「大京都 2018 in 福知山」における関連イベントとして、参加作家のひとり、藤浩志によるアーティストトークを実施しました。藤氏から自身の活動について紹介、今回のプロジェクトについてお話しいただきました。加えて、ゲストに、福知山でまちづくりに関わる谷口教授、庄田氏の2名を招き、お二人のプロジェクトについて紹介を受けた後、藤氏とゲストにて、アートとまちづくりの関係性や、今後の可能性について討論をおこないました。

会場からは質問や意見も多数あがり、今後の福知山におけるアートやデザインを活かしたまちづくりについて活発な議論が交わされました。

京都府中丹広域振興局
アートマネージャー 朝重龍太



アーティストトーク@吹風舎
日時：2018年11月3日(土) 15時-17時
会場：福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎
登壇者：藤浩志(美術家)
谷口知弘(公立大学法人 福知山公立大学 教授)
庄田健助(株式会社 Localize 代表取締役)

参加人数：32名

スモールビジネス女性起業塾

4期目となる「スモールビジネス女性起業塾」は京都府中丹広域振興局の事業を継承しておこなっています。講演会などの学びの場も京都府北部から減っているのではないかと、そんな危機感もあり、「いいまちには、いい勉強会(講演会)がある」という思いをもって継続中です。6~翌年3月まで毎月1回、計10回、市内外の講師を招く講座を綾部、福知山で開催。吹風舎では、『パラレルキャリア』著者でカフェ6次元オーナーのナカムラクニオさん(東京)、『モテるまちづくり』著者の谷亮治さん(京都)、シェアオフィスなどを手掛けるTsuchica代表・岡村芳広さん(京丹後)、マルシェや6次産業のコーディネーターである山内美陽子さん(大阪)をお招きし4講座を開催しました。新しい考え方や起業のヒント、志を同じくする仲間との出会いの場となり、地域がすこしでも元気になるきっかけができればと願っています。新町商店街の魅力も伝えられたらと思います、活用させていただいています。

スモールビジネス女性起業塾 代表・塩見直紀



フクユメ ~福知の人の夢語り~

フクユメは、月に1回福知山にご縁のある方をゲストスピーカーとしてお呼びして、夢や目標について語り合う会です。普段意識することが少ない夢や目標について誰かの話を聴くことで意識するきっかけや新しいつながりが生まれる場となっています。

ゲストスピーカーとして、大学生や会社員、公務員など様々な方が夢や目標について今まで語ってくれました。夢や目標を持つ人・持ちたい人が出会い、応援し合える場となるようにこれからも語り合っていきます。

主催：フクユメ実行委員会

▶フクユメ実行委員会は、龍谷大学政策学部を卒業し、福知山に関わる3名で運営企画を行なっています。



活用状況報告

福知山ワンダーマーケットとの連携

福知山ワンダーマーケットは、市民有志が実行委員会を結成し、2016年10月に第1回を開催して以来、毎月第4日曜日に催されている「暮らし」と「食」をテーマにした定期市です。手作りの雑貨や飲食など約50店舗が新町商店街に店開きし大勢の人々で賑わいます。この取り組みのコンセプトは、福知山ワンダーマーケット公式フェイスブックページに次のように記載されています。

福知山というまちで、自分サイズの暮らしをもっと楽しむための定期市。簡単でもきちんと手の加えられた料理を食べたいひとや身の丈に合った質の高い暮らしを求める感性の高いひと。そんな皆さんが毎月楽しみに足を運んで下さるようなマーケット運営を目指しています。

月に一度のマーケットを通じて、福知山というまちに親近感を感じてもらえたり、数々の老舗や地元のお店と、新しく事業を始めたい人々やアイデアが出会い、影響し合って、人やモノやコトが繋がれば、まちなかで起業・創業する人も増えて、福知山という地域がさらに盛り上がるのではと期待を込めています。

このような、持続可能な暮らしやコミュニティ、起業によるまちなかの活性化を目指す活動に共感し共に取り組みたいと連携を試み始めました。具体的には、運営のボランティアやワンダーマーケット開催時のまちかどキャンパスの活用、学生が進める地域プロジェクトのワークショップの開催などを行っています。学生にとっては、市民と協働する実践教育の機会であり、大切な学びの場となっています。



資料 活動事業報告 03 アンケート調査

福知山公立大学 第1回まちびと起業塾(スキマ=空き室)

講師 水野 美代子さん(京都市北区在住) / 岡本 和哉さん(京都工芸繊維大学)

アンケート実施概要

参加者数	14人	
回答者数	11人	
性別	男子：10人	女子：4人
回収率	73%	

【Q1】「スキマ=空き室」の内容はいかがでしたか？

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
5人	5人	1人	0人	0人

- ・大変楽しいお話でした。レアケースかも。 ・水野さんの考え方が本当に素晴らしかった。
- ・本日は成功例を紹介してもらいましたが、もしあるならば、失敗例、うまくいかなかった点などがあれば教えていただいたら勉強になったかもしれない。 ・新しく知ったことが多かった。 ・実際の具体的なお話が聞けましたが、理想的な事例なので～
- ・詳しいことが分かった。メリットについて整理ができた。(今まで経済的なメリットしか思い描いてこなかった)
- ・若い娘さんなので、男性と部屋で過ごすというのは困るな。家族とお過ごしならいいし、お友達とおしゃべりなさってもいい。

【Q2】今後、まちびと起業塾でしてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

- ・お家の改修など ・離れの家のソリデールについて ・ジビエ関係の町おこし ・空き家対策においては、以前どこかで見たのですが、市の委託で土地家屋調査士が入居者と家主のマッチングをされていた。その可能性などは

【Q3】まちかどキャンパスについて、ご意見、ご要望がございましたら、お聞かせください。

- ・ぜひ盛り上がるよう期待しています。 ・思ったより入りやすかった。
- ・少しづつ間を詰めていける行事を予定してほしい。
- ・集会の時に使用させていただいたが、支払いが振り込みなのは困る。 ・駐車場を用意してほしい。

【Q4】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待することについてお聞かせください。

- ・大学を訪問しても駐車場がなく、職員の車で占めているため停めることができない。
- ・市民が大学を見学に行く機会がほしい。

【Q5】集計資料としていただきたくお伺いします。

1 性別	男性：10人		女性：4人					
2 年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	1人	3人	1人	2人	1人	2人	2人	2人
3 お住いの場所	旧福知山市内		福知山市内		市外			
	13人		0人		1人(宮津)			

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか。

チラシ	ホームページ	新聞	知人	その他
3人	1人	0人	6人	4人

アンケート資料

福知山公立大学 第2回まちびと起業塾(スキマ=公共空間)
講師 中原 大輔さん(ササヤマルシェ)

アンケート実施概要

参加者数	23人	
回答者数	21人	
性別	男子：12人	女子：11人
回収率	91.3%	

【Q1】「第2回スキマ=公共空間」の内容についてお聞かせください。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
12人	4人	4人	0人	0人

(不明 3名)

《もっと聞きたいと思った内容》

- ・聞けなかったのですが、中原さん自身の収入面ではどんな感じですか？ ・古い街並みをどうやって残すか、価値を知ってもらうか
- ・ターゲットにあった具体的な集客方法、ササヤマルシェに三万人も集まった理由 ・ササヤマルシェに関わった人々
- ・外から見た福知山の未来 ・お金の話 ・当初の地元の方々とのやり取り、よく思わない方々への入り方をどうしたのか?を教えてください
- ・負の側面 ・不動産業者とのかかわり(まちの価値をあげるという観点で) ・イベントでの失敗例や、お客様、出店者の声
- ・これからのイベントはどのような方向になるのか ・イベントの主催者→ビジネスになった時の収入はどのように

《その他講義に対するご意見ご要望》

- ・各テーブルで話し合った内容を、みんなでもっとシェアしたかった。 ・わかりやすいお話でした。
- ・自己紹介は司会がさっとでいいかなと思いました。 ・柔らかなさの中に、要のお金の話などをリアルに聞けて良かったです。
- ・中原さんのお話しも、とてもよくて大満足です。またテーブルごとのディスカッションも多くて、活気のある時間で楽しかったです。
- ・これからのイベントはどのような方向になるのか ・とても楽しかった。

【Q2】今後、まちびと起業塾でしてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

- ・国人口増加につながるアイデア 沢山 ・北部7市町のフィールドワーク ・地域メディアの作り方、活用の仕方 ・海外との関わり
- ・ローカルでのファイナンス ・起業の一番最初に何を始めたらいいか? ・お店を続けていくための秘訣など
- ・リノベーションまちづくり ・町の住人がどこまでのまちづくりを期待しているのか

【Q3】まちかどキャンパスについて、ご意見、ご要望がございましたら、お聞かせください。

- ・期待しています。 ・スキマの掛け算、面白いです。 ・気軽に立ち寄りたけれど、ドキドキします。
- ・初めてこの空間に入って、今回参加させていただいて、サイズや居心地もよいなと思いました。

【Q4】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待することについてお聞かせください。

- ・もっとさらに情報発信をお願いします。 ・公立大学生と青年部で起業してもらいたいです。
- ・谷口先生のお話も分かりやすく、とてもよかったです。

【Q5】集計資料としていただきたくお伺いします。

1性別	男性：12人	女性：11人
-----	--------	--------

2年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	0人	3人	7人	4人	3人	4人	0人	0人

(不明 2名)

3お住いの場所	旧福知山市内	福知山市内	市外
	10人	2人	5人

(不明 6名)

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか。

チラシ	ホームページ	新聞	知人	その他
6人	2人	0人	9人	4人

(不明 2名)

福知山公立大学 第3回まちびと起業塾(スキマ=空き家)
講師 沢田さやかさん(古民家の宿ふるま屋) / 中尾 誠二教授(福知山公立大学)

アンケート実施概要

参加者数	17人	
回答者数	11人	
性別	男子：13人	女子：4人
回収率	64%	

【Q1】「スキマ=空き家」の内容についてお聞かせください。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
7人	3人	1人	0人	0人

《もっと聞きたいと思った内容》

- ・事業とライフバランスについて、地域の方々との事業的な関わり
- ・空き家を点でなく面としてとらえ、複数の同時活用することによるビジネスの可能性 ・ふるまやさんの経営やストーリー

《その他講義に対するご意見ご要望》

- ・充実した面白い内容をありがとうございました。 ・専門的なことが聞けて良かったです。
- ・宿泊客が陶器を購入するという話で、工房と民宿の併設による販路の確保が図れるのではないかと思った。
- ・薪を使った暖炉の話では、エネルギーの地産地消だけでなく、廃材や利用しなくなった家具を利用することで、エネルギーのリユースが図れるのではないだろうか。

【Q2】今後、まちびと起業塾でしてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

- ・都市部における空き家活用についても聞いてみたいです。 ・ビジネスを実施していく上での資金調達の手法
- ・ホームシェアリングの話を知りたいです。 ・シェアオフィス、コワーキング、インキュベーション施設、レンタルスペース

【Q3】まちかどキャンパスについて、ご意見、ご要望がございましたら、お聞かせください。

- ・イベント表などがあればうれしい。

【Q4】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待することについてお聞かせください。

- ・先生が求められていることが知りたい

【Q5】集計資料としていただきたくお伺いします。

1性別	男性：13人	女性：4人
-----	--------	-------

2年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	0人	3人	5人	4人	2人	2人	0人	0人

(不明 1名)

3お住いの場所	旧福知山市内	福知山市内	市外
	9人	3人	4人(宮津)

(不明 1名)

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか。

チラシ	ホームページ	新聞	知人	その他
5人	1人	0人	4人	1人

(不明 6名)

アンケート資料

福知山公立大学 第4回まちびと起業塾(スキマ=廃校)

講師 今井 進さん(合同会社里山工房くもべ代表)

アンケート実施概要

参加者数	12人	
回答者数	9人	
性別	男子：9人	女子：3人
回収率	75%	

【Q1】「スキマ=廃校」の内容についてお聞かせください。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
2人	4人	2人	0人	0人

(もっと聞きたいと思った内容)

- ・ 本当の収支、補助とか色々合わせての
- ・ 失敗して、大変なことになっている事例
- ・ 実例や具体的策と意見をかわせる時間が欲しい

(その他講義に対するご意見やご要望)

- ・ 地域活性化例

【Q2】 今後、まちびと起業塾でしてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

- ・ 各地域産業の創生、特性を生かした産業とは、地場産業の活かす方法等

【Q3】 まちかどキャンパスについて、ご意見、ご要望がございましたら、お聞かせください。

- ・ もっと問題提起をお願いします。

【Q4】 福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待することについてお聞かせください。

- ・ 卒業生を地域の中に送り込む
- ・ 地方大学の特性を生かし、地域に根ざした教育の指導を願いたい。特に今後少子高齢化対策が重要かと思う。

【Q5】 集計資料としていただきたくお伺いします。

1 性別	男性：9人	女性：3人
------	-------	-------

2 年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	0人	0人	1人	1人	3人	4人	0人	0人

(不明 3名)

3 お住いの場所	旧福知山市内	福知山市内	市外
	4人	3人	2人(宮津)

(不明 3名)

【Q6】 このシンポジウムを何でお知りになりましたか。

チラシ	ホームページ	新聞	知人	その他
3人	3人	0人	0人	2人

(不明 4名)

福知山公立大学 第5回まちびと起業塾(スキマ=郊外既存施設)

講師 柿迫 義昭さん(有限会社タナセン 農事部長)

アンケート実施概要

参加者数	12人	
回答者数	4人	
性別	男子：7人	女子：5人
回収率	75%	

【Q1】「スキマ=郊外既存施設」の内容についてお聞かせください。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
1人	3人	0人	0人	0人

(もっと聞きたいと思った内容)

- ・ 質疑応答でもっと聞きたいことがある
- ・ 他の施設の具体的な進捗状況

(その他講義に対するご意見やご要望)

【Q2】 今後、まちびと起業塾でほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

- ・ 各地域産業の創生、特性を生かした産業とは、地場産業の活かす方法等
- ・ 村の活性化例～綾部里山ネットの取組み～
- ・ 空き家ビジネス
- ・ 自治会の活性化

【Q3】 まちかどキャンパスについて、ご意見、ご要望がございましたら、お聞かせください。

【Q4】 福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待することについてお聞かせください。

- ・ 学生も参加して、一般の方とディスカッションしては
- ・ 若者が街を盛り上げてほしい。
- ・ 期待しています

【Q5】 集計資料としていただきたくお伺いします。

1 性別	男性：7人	女性：5人
------	-------	-------

2 年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	0人	0人	2人	0人	1人	1人	0人	0人

(不明 8名)

3 お住いの場所	旧福知山市内	福知山市内	市外
	3人	1人	0人

(不明 8名)

【Q6】 このシンポジウムを何でお知りになりましたか。

チラシ	ホームページ	新聞	知人	その他
2人	0人	0人	1人	1人

(不明 8名)

アンケート資料

福知山公立大学 第6回まちびと起業塾(スキマ=集会所)

講師 大概 保政さん(観音寺スマイルサークル代表)

アンケート実施概要

参加者数	20人	
回答者数	9人	
性別	男子：13人	女子：7人
回収率	45%	

【Q1】「スキマ=集会所」の内容についてお聞かせください。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
8人	0人	1人	0人	0人

(もっと聞きたいと思った内容) (不明 11名)

・5年先を読む難しさ。

(その他講義に対するご意見やご要望)

・理解しやすい内容でした。

・具体的な内容で、わかりやすく感じました。

・発表者との意見交換の時間がもっと欲しい。

【Q2】今後、まちびと起業塾でしてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

・国道9号線沿いに道の駅らしきものを作りたい意向であるが、なかなか前に進まない。

・現在上六人部活性化協議会の中でいろいろと議論されているが、前に進んでいない状況

【Q3】まちかどキャンパスについて、ご意見、ご要望がございましたら、お聞かせください。

・出張キャンパスができるか

・初めて参加しましたが、とても楽しかった。

【Q4】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待することについてお聞かせください。

・各自治体とのコラボできることを発掘して実行できたら面白い。

・地域の活性化について、このような講座をお願いします。

・いろいろ活動されていることを新聞等で見せてもらっています。

・学生との意見交換を行い、何かできないか考えてみたい。

【Q5】集計資料としていただきたくお伺いします。

1性別	男性：13人	女性：7人
-----	--------	-------

2年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	0人	0人	0人	1人	1人	5人	2人	0人

(不明 11名)

3お住いの場所	旧福知山市内	福知山市内	市外
	7人	1人	1人(綾部)

(不明 11名)

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか。

チラシ	ホームページ	新聞	知人	その他
2人	0人	0人	6人	1人

(不明 11名)

福知山公立大学
まちかどキャンパス「吹風舎」

〒620-0028 福知山市字上新7番

TEL：0773-45-3087

Email：machikado@fukuchiyama.ac.jp

福知山公立大学 まちかどキャンパス 吹風舎

2018年度 活動報告書 2019年3月発行

発行元：福知山公立大学 まちかどキャンパス 吹風舎

編集デザイン：PAPERON © 吹風舎2019, Printed in Japan